

研修で
学校が
変わる

教育相談コーディネーター研修②

児童生徒相談員研修② まとめ

令和3年10月28日(木)

Web会議による遠隔研修(会場校)

「不登校児童の理解と援助」

講師 水野 治久 氏(大阪教育大学 教授)



【研修のねらい】

■ 不登校児童生徒の実態に応じた具体的支援について理解し、未然防止に向けた取組に活かす。

不登校は援助の入り口

「学習面」「心理・社会面」「進路面」「健康面」 → 「キャリア形成」につなぐ

教室でのニーズのある 子どもたち

- ・発達系を見る
発達への偏りによる困り感からか？
- ・虐待・愛着？
虐待や愛着の問題からか？
- ・人との関係で？
学級が親和的でないからなのか？

不登校の子どもへの深刻さの軸で見る

遅刻 3日連続欠席 10日 20日 30日欠席 1学期間
月・火 いじめが理由の場合 重大事態

臨床・福祉・医療

予防・未然防止

自治的集団を育てる
学級経営

小学校から連続体で
子どもを見る

対応に追われるのではなく
仕掛けていく生徒指導
学校づくりを

チーム(教師・CO・SC・児童生徒相談員・SSW・学校外の諸機関)で不登校児童生徒を支援する

明日への想い(マイ・アイデア)

(教育相談コーディネーター：教諭)

児童が学校へ来る理由として、友達と授業を挙げておられたことが印象的だった。不登校を未然に防止するためにも、わかる授業・楽しい授業を今後も心がけていきたい。また、不登校の原因を四つに区分していただいたおかげで、やみくもに原因を考えるのではなく、区分に沿って考えていけるようになった。

(教育相談コーディネーター：教諭)

保護者や本人との面談の際には、不登校の状況やその原因の把握・見取りは当然ではあるが、まずは本人・保護者が何を一番の心配ごとと捉えているのかを理解し、その不安に対する共感と助言・支援を考えていくことが非常に大切であると感じた。以後の相談活動にその姿勢をもって臨みたい。

(教育相談コーディネーター：養護教諭)

不登校児童またはその恐れのある児童がいた場合に、コア援助チームで見立てと援助案の策定につなげていきたい。COとしてチームメンバーをつなげられるよう働きかけたい。

(児童生徒相談員)

事例についての検討、意見、解説が大変参考になった。不登校生徒の要因として、事実から深く読み取ることが重要だと再確認した。本人を心配しているという健康面からのアプローチでは養護教諭との連携も大切である。現在休みが多くなりつつある生徒への声掛けでは、体調や食事なども気をつけて聞き取っていくなどして、今回の研修を活かしていきたい。

(児童生徒相談員)

不登校の子どもに対する個々の援助を考える際に、今回教えていただいた学校心理学の「学習面」「心理・社会面」「進路面」「健康面」の4つの視点を活かして検討していきたい。

(教育相談コーディネーター：養護教諭)

不登校の原因ではなく、援助のニーズがどこにあるのかを校内でしっかり実態把握をし、その上で専門機関、地域の関係機関と速やかに連携していきたい。また、学級で困り感のある児童に対しても援助ニーズを把握し、保護者との話し合いでは良いところを伸ばすために今後どうするかを中心に伝えていきたい。